

文副詞 *basically* の通時的変遷についての一考察

新實葉子

Abstract

This paper attempts to analyze the diachronic change (the historical development) of *basically* (an adverb derived from the adjective *basic*) used as a sentence modifying adverb. Comparative research is also conducted for the adverbs *hopefully* and *thankfully*, whose newly emerged usage as sentence modifying adverbs has sometimes been criticized in previous literature but are now commonly accepted. We will utilize the Corpus of Historical American English (COHA) and scrutinize the diachronic change of these adverbs, paying special attention to lemma frequency and their frequency as sentence modifying adverbs.

キーワード： *basically*, *hopefully*, *thankfully*, 文副詞用法, 通時的分析

1. はじめに

本稿では、形容詞 *basic* から派生した副詞 *basically* の文副詞用法について、同じく形容詞から派生した *ly* 副詞である *hopefully*, *thankfully* とともに通時的データをもとに考察する¹⁾。

2. *basically* に関する先行文献

まず、辞書をはじめとした各種文献における *basically* の記述と Garner (2003, 2016) によって流行語として挙げられている *basically* についての記述を確認する。

2.1. 辞書における *basically* の記述

英和辞書における *basically* の記述はおおよそ次の2義である (『G大』『W4』『R大2』)。

- (1) 基本的に (は), 根本的に (は)
- (2) つまり, 要するに

(1) の訳語に「は」とあるように、「ただし、ここで言及しない重要度の低い例外があり得る」といった含意がある。(3) は OALD10 の *basically* の語義のうち (1) に、(4) は (2) に相当すると思われる記述である。

- (3) in the most important ways, without considering things that are less important
 (4) used when you are giving your opinion or stating what is important about a situation

(2) については、通例文頭での用法であることが注記されている。(5) に W4 の記述を示す。

(5) (主に話) [文修飾; 通例文頭で] つまり、要するに (最も重要なことを述べたり、要点を手短に挙げる時に用いる)

2.2. OED (Online 版) における記述

次に、basically に関する OED (Online 版, basically の項) の語義を確認する。

- (6) As a basic or fundamental principle, condition, matter, etc.; essentially; fundamentally.

収録されている使用例は 1903 年から 1927 年のもので、いずれも文中で直後の名詞句・形容詞を修飾するものであり、文頭での使用ではない。

表 1 は basically と 3 節で言及する hopefully・thankfully と、各 ly 副詞の派生元である形容詞の初出年代で、basically・basic は比較的 to 新しき時代に生まれた語であるといえる。

表 1 ly 副詞とその派生元の形容詞の初出年 (OED Online 版)

basic (adj)	1846	hopeful	1597	thankful	971
basically	1903	hopefully	a1639	thankfully	c1000

2.3. 流行語としての basically

Garner (1998, 2003, 2016) は VOGUE WORDS (流行語) の項目に a representative collection of fairly durable example のリストを収録している。リストに収録された言葉には出版年ごとに増減が見られるが、basically は Garner (2003) から収録され、Garner (2016) の時点でも VOGUE WORDS として残留している。しかし、Garner (2003, 2016) は basically を VOGUE WORDS の項目内で流行語の 1 つとして挙げるにとどまり、具体的な用法の説明はしていない。また、Garner (2003, 2016) には basically そのものの項目が収録されているが、いずれも basicly ではなく basically と綴られるという記述のみである。3 節で述べる文副詞としての hopefully と thankfully と比べて用法の記述が不十分であるといえる。

なお、Garner (1998, 2003, 2016) の VOGUE WORDS のリストには definitely, overly といった ly 副詞が含まれるが、definitely そのものの項目にも綴りについての言及があるのみである (Garner 2003: 229, Garner 2016: 254) ²⁾。overly の項目にも接辞 over- による別の表現が可能であることから、読み書き能力が不十分 (semiliterate) と捉えられるとの記述にとどまる (Garner 2003: 583, Garner 2016: 664-665)。

3. hopefully と thankfully

basically と同様に形容詞に接辞がついて派生した hopefully と thankfully には、1960年代以降に物議を醸した文副詞の用法が指摘されている (Garner 1998, Garner 2003, Garner 2016, 金子 1991)。金子 (1991: 57-60) は、「I am thankful (that) you have come to our aid. の代わりに Thankfully, you have to come to our aid.」「I hope I'll finish my work by the end of next month. を Hopefully, I'll finish my work by the end of next month. ですませてしまう」ように (7) の adjective を副詞に換えた表現を取り上げ、hopefully と thankfully については1990年代には定着したとの見方を示している。

(7) It is + adjective (past participle) + that ~ .

Garner (1998, 2003, 2016) も hopefully と thankfully の文副詞用法について SENTENCE ADVERBS (文副詞) の項目とそれぞれの語の項目で言及している。thankfully について Garner (1998: 647) では I am (or we are) thankful that の意味で使われるべきではないと記述されているが、Garner (2003) では最適な用法ではないものの一般的な用法になったとされ、時代による実態を反映したと思われる記述の変化が見られる。

hopefully について Garner (1998, 2003, 2016) は、本来は「望みを持った態度で (in a hopeful manner)」を意味するものであり、文副詞として「～を望む (I hope)」「～が望まれる (it is to be hoped)」の意味で使われるべきではないという議論が1960年代から1980年代に生じたことと、議論は生じたものの同表現がすでに米英語として認識されていること、それでも文副詞用法は批判の対象となり得ることを指摘している。Garner (2016: 834) は、以下のように述べている。

When a word undergoes a marked change from one use to another — a phase that might take ten years or a hundred — it's likely to be the subject of dispute. Some people (Group 1) insist on the traditional use; others (Group 2) embrace the news use, even if it originated purely as the result of WORD SWAPPING OR SLIPSHOD EXTENSION. Group 1 comprises various members of the literati, ranging from language aficionados to hard-core purists; Group 2 comprises linguistic liberals and those who don't concern themselves much with language. As time goes by, Group 1 dwindles; meanwhile, Group 2 swells (even without an increase among the linguistic liberals).

A word is most hotly disputed in the middle part of this process: any use of it is likely to distract some readers. The new use seems illiterate to Group 1; the old use seems odd to Group 2. The word has become “skunked.”

要約すると、語の用法に顕著な変化が生じ、新用法を好ましく受け取る側と従来の用法を重視する側に分かれ、前者には従来の用法が奇妙に感じられ後者には新用法が無教養に感じられ

るとき、その語は skunked term であるとされ、hopefully はその好例として取り上げられている。

basically も hopefully と thankfully 同様に文副詞用法の使用が時代により増加している可能性がある。これらの副詞の通時的な変化を比較することで、basically と hopefully・thankfully との類似が指摘できる可能性がある。

4. basically・hopefully・thankfully の使用頻度の通時的変化

本節では、COHA (The Corpus of Historical American English) における 1810 年代から 2009 年代にかけての basically・hopefully・thankfully の使用頻度の通時的変化を示す。先にデータの処理方法を述べ、その後で各副詞のレンマ頻度と、文頭位置に生じていて直後にコンマが現れる使用頻度の通時的変化を示す。

4.1 処理方法

データの抽出は立命館大学で購入され、Linux マシンに保存された COHA の text と wlp のファイルを対象に、UNIX コマンドと Perl による処理で行う。text ファイルは元の文章の形で保存されたもので、wlp ファイルは text ファイルの全ての語を 1 行ごとに出現形 (word)・レンマ (lemma)・品詞情報 (pos) の形式で示したものである。

表2 full text の形式 (COHA: fic_2009_36787.txt)

```
@@36787
You do n't know me yet , so there is no reason you should care that I 'm stuck on a highway with a
blow out . But maybe we can relate to each other .
```

表3 wlp の形式 (COHA: fic_2009_36787.txt)

```
@@1787
You      you      ppy
do       do       vd0
n't      n't      xx
know     know     vvi
me       me       ppiol
yet      yet      rr
,        ,        y
```

表2はtextファイルの冒頭で、表3は表2に対応するwlpファイルの冒頭である。このwlpファイルの行数を各textファイルの語数と見なす³⁾。

wlpファイルからbasically・hopefully・thankfullyのレンマ使用頻度を調査する前に、各ファイル名に含まれる年代情報を行頭に追加し、COHAのデータに混在する改行コードの形式を\nに統一する。

(8) perl-pe 's/^\\$ARGV:t/; s/_d+\txt/.txt/; s^R/n/g' *.txt

上記の整形の後に (9) の検索を行い、表 4 の形式で COHA における basically のレンマ頻度と出現ファイル名を得る。ファイル名にはジャンルと年代が含まれているため、年代ごとのレンマ頻度を確認することができる。hopefully と thankfully についても同様の手順でレンマ頻度を確認する。行頭の fic は fiction, 1936 は年で、その次に出現形とレンマ形が表示されている。末尾の rr は品詞 (pos) 情報である。ファイル名には個別のテキストの ID が年の後ろに付随しているが、ここでは不要なため (8) で削除している（実際の処理ではファイル数が多すぎて一括した処理ができないため、ジャンルごとに 1 つのファイルにまとめている）。

(9) perl-ne 'if (\txt:\tbasicly\t/i) { print "\$_";}' *.txt

表 4 (9) から得られる wlp ファイルにおけるレンマとしての basically の出現行

fic_1936.txt:	basically	basically	rr
fic_1936.txt:	Basically	basically	rr

次に、文頭位置に生じていて直後にコンマが現れる使用の頻度を確認する⁴⁾。副詞が文副詞用法かどうかの判断は文脈を確認する必要があるが、文頭位置に生じていて直後にコンマを伴うものは文副詞である可能性が極めて高いととらえ、今回はこの条件での検索結果を使用する⁵⁾。COHA の text ファイルを対象に (10) の検索を行い、「Basically ,」の文字列を含むファイル名を得る。「Hopefully ,」「Thankfully ,」についても同様の手順である。以下、「文頭位置に生じていて直後にコンマが現れる」という意味で「Basically ,」「Hopefully ,」「Thankfully ,」の表記を用いる。

(10) perl-ne 'while (\bBasically ,/g) { print "\$ARGV\n";}' *.txt | perl-pe 's/_d+\txt/.txt/'

表 5 (10) から得られる「Basically ,」が出現する text ファイル名

fic_1945.txt
fic_1945.txt
fic_1949.txt

上記の手順により、COHA における basically・hopefully・thankfully のレンマ頻度と「Basically ,」「Hopefully ,」「Thankfully ,」の頻度が年代情報とともに得られる。

4.2 basically

滝沢・西村 (2016: 12) は COHA における ly 副詞の頻度変化を分析し、1810 年から 2009 年の 200 年間で使用頻度が右肩上がりになっている副詞を同定している。その中には basically も含まれる。今回の調査から文頭の「Basically ,」の頻度もそれに伴い増加していることが明らかとなった (表 6・図 1 参照)。表には小数点第 2 位までを示す。レンマ頻度の上昇はこの副詞の文副詞以外の用法を含んだ使用の増加を意味する。Basically 全体の使用が増加するに伴い、文副詞としての使用も増加しているといえよう。

表6 100万語あたりの「basically のレンマ」および「Basically ,」の頻度

年代	レンマの頻度	「Basically ,」の頻度
1810s	0.00	0.00
1820s	0.00	0.00
1830s	0.00	0.00
1840s	0.00	0.00
1850s	0.00	0.00
1860s	0.00	0.00
1870s	0.00	0.00
1880s	0.00	0.00
1890s	0.04	0.00
1900s	0.00	0.00
1910s	0.11	0.00
1920s	1.25	0.10
1930s	2.21	0.18
1940s	4.58	0.70
1950s	8.13	0.87
1960s	12.36	1.89
1970s	13.87	1.98
1980s	15.41	2.09
1990s	17.16	2.78
2000s	17.31	2.79

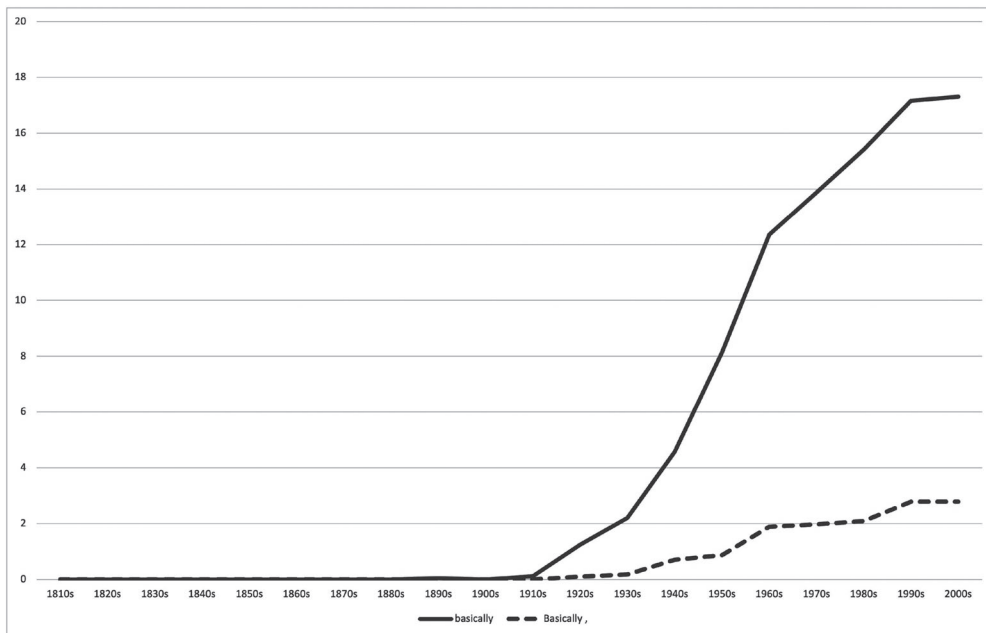


図1 100万語あたりの「basically のレンマ」および「Basically ,」の頻度

次に、Garner (1998, 2003, 2016) と金子 (1991) によって文副詞用法が指摘されている hopefully と thankfully も同様に確認する。

4.3 hopefully

表7と図2は前節の basically と同様に hopefully のレンマ頻度と「Hopefully ,」の頻度の通時

文副詞 basically の通時的変遷についての一考察（新實）

的な変化を示したものである。hopefully も basically と同様にレンマ頻度の上昇に伴い文副詞用法の使用が増加していると考えられる。

表 7：100 万語あたりの「hopefully のレンマ」および「Hopefully ,」の頻度

年代	レンマの頻度	「Hopefully ,」の頻度
1810s	1.42	0.00
1820s	0.49	0.00
1830s	0.81	0.00
1840s	1.07	0.00
1850s	3.59	0.05
1860s	2.93	0.00
1870s	3.15	0.00
1880s	2.61	0.00
1890s	2.08	0.00
1900s	3.29	0.00
1910s	4.44	0.00
1920s	5.87	0.03
1930s	4.66	0.04
1940s	6.38	0.00
1950s	7.37	0.21
1960s	7.77	0.53
1970s	5.36	0.22
1980s	5.70	0.64
1990s	6.14	0.88
2000s	10.12	1.41

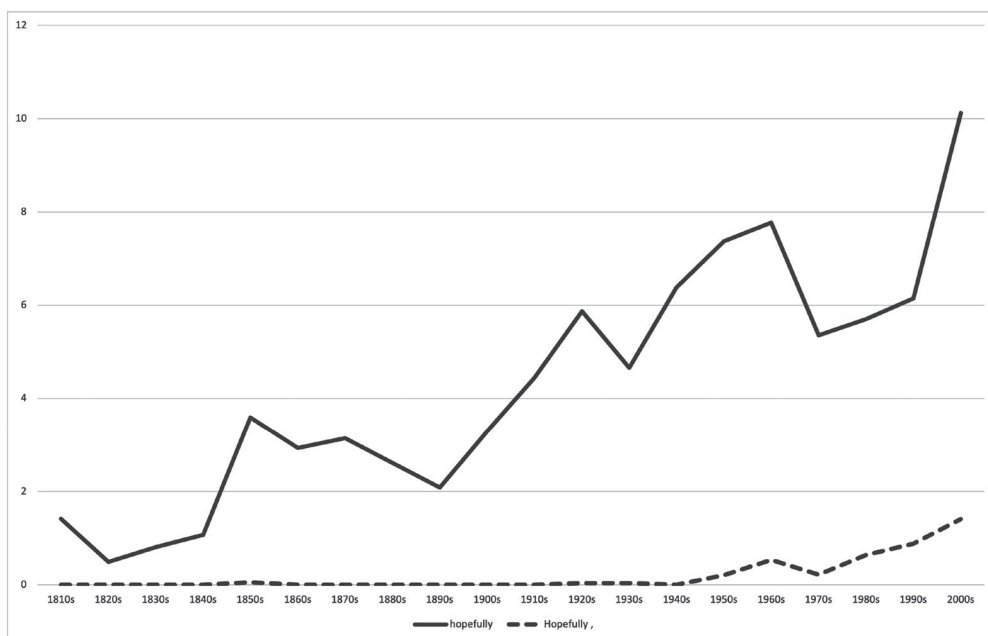


図 2 100 万語あたりの「hopefully のレンマ」および「Hopefully ,」の頻度

4.4 thankfully

表 8 と図 3 は同様に thankfully のレンマ頻度と「Thankfully ,」の頻度の通時的な変化を示し

たものである。thankfully も basically と hopefully と同様にレンマ頻度の上昇に伴い文副詞の使用が増加していると考えられる。

表8 100万語あたりの「thankfully のレンマ」および「Thankfully,」の頻度

年代	レンマの頻度	「Thankfully,」の頻度
1810s	0.71	0.00
1820s	1.85	0.00
1830s	1.30	0.00
1840s	1.18	0.00
1850s	1.66	0.00
1860s	1.62	0.00
1870s	0.88	0.00
1880s	1.37	0.00
1890s	0.98	0.00
1900s	0.55	0.00
1910s	1.22	0.04
1920s	1.01	0.00
1930s	0.91	0.04
1940s	0.63	0.00
1950s	0.49	0.03
1960s	0.57	0.00
1970s	0.83	0.18
1980s	0.74	0.03
1990s	1.51	0.42
2000s	3.36	1.35

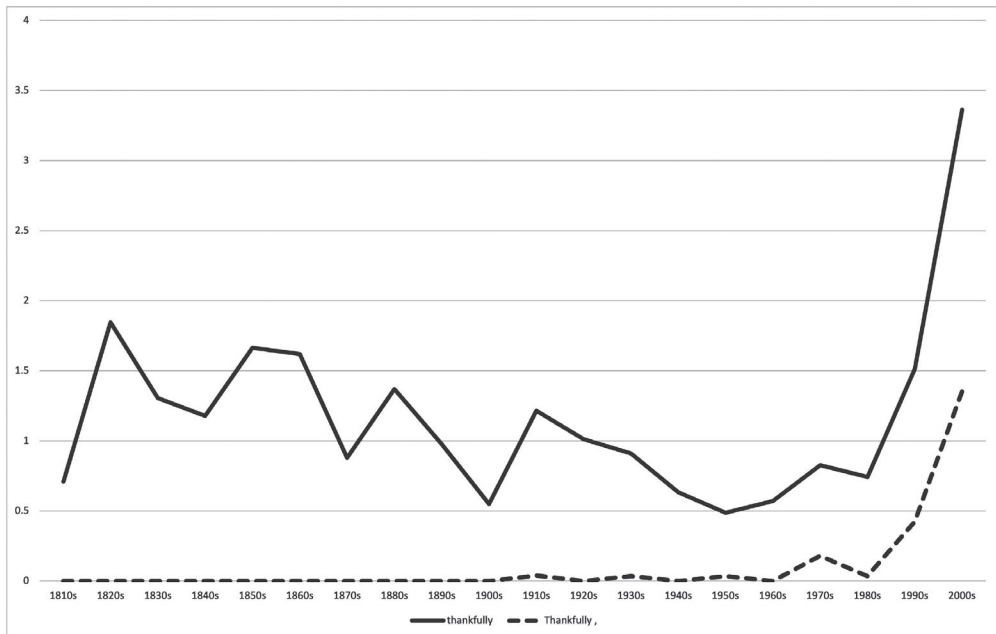


図3 100万語あたりの「thankfully のレンマ」および「Thankfully,」の頻度

4.5 basically・hopefully・thankfully の比較

4.2節から4.4節では、3つの副詞の頻度の通時的変化を個別に確認した。本節では、これら

をレンマごとと「Basically ,」「Hopefully ,」「Thankfully ,」の文頭での使用かつ直後にコンマを伴う用法ごとに比較する。図4は basically, hopefully, thankfully のレンマ頻度の推移である。いずれの副詞も通時的に見て頻度が上昇しており、中でも basically の増加が際立っている。

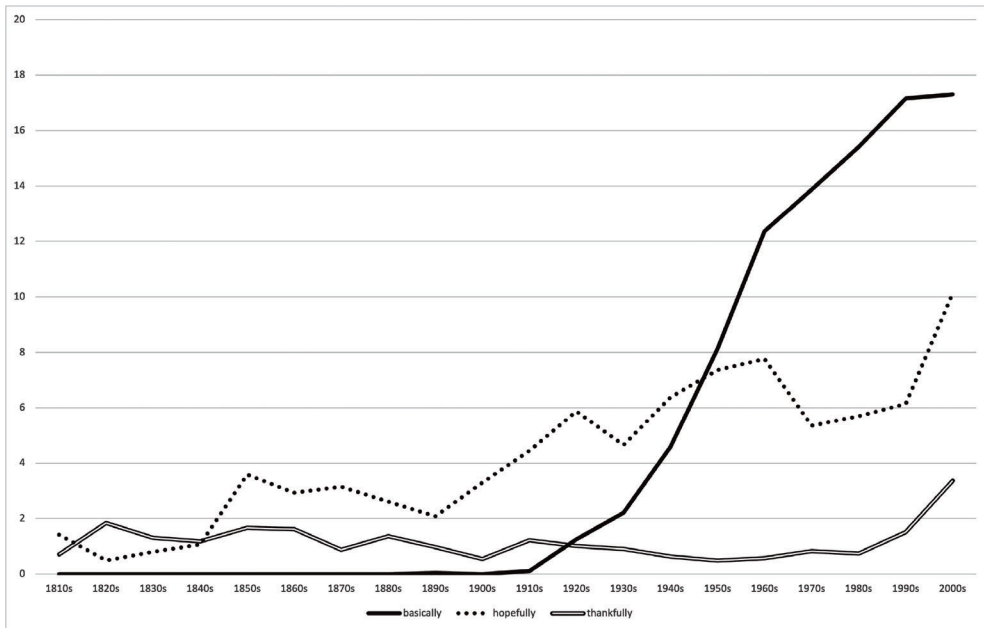


図4 100万語あたりの basically, hopefully, thankfully のレンマ頻度

次に、図5に「Basically ,」「Hopefully ,」「Thankfully ,」の頻度の推移を示す。

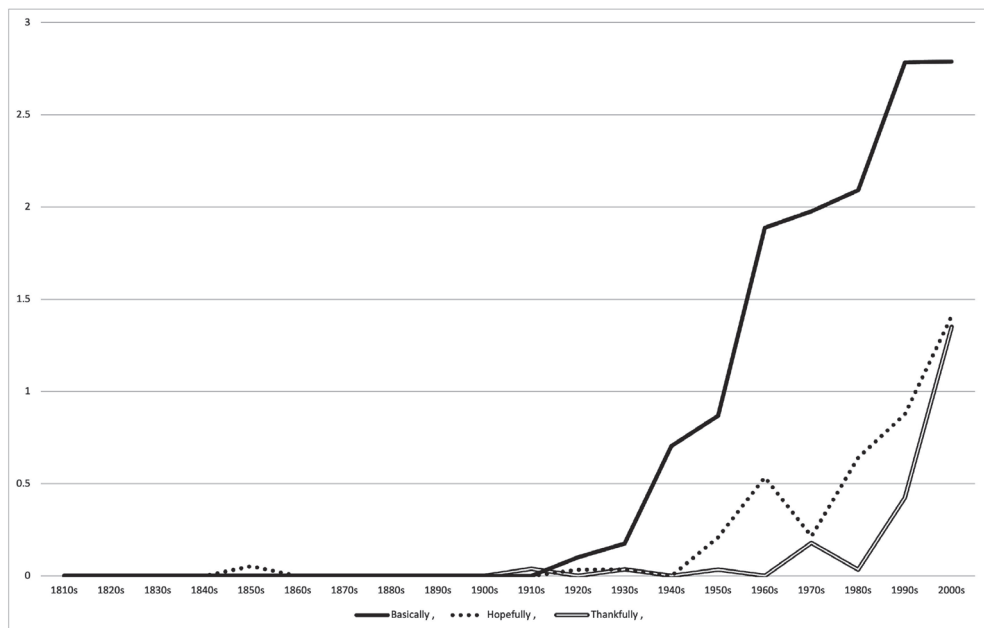


図5 100万語あたりの「Basically ,」「Hopefully ,」「Thankfully ,」の頻度

いずれの副詞もレンマ頻度の上昇とともに文副詞としての使用も増えていると考えられる。Garner (1998, 2003, 2016) や金子 (1991) によって文副詞用法での使用の増加が指摘されていた *hopefully* と *thankfully* と比較しても、*basically* の文副詞用法の使用も同程度以上に増加しているといえる。

5. 結論

本稿では、副詞 *basically* の文副詞用法について、既に文副詞用法の増加が指摘されていた同種の副詞 *hopefully* と *thankfully* とともに通時的変化を分析した。*basically* の文副詞用法については既に文献で指摘されているが、*hopefully* と *thankfully* 以上に文副詞としての使用が増加していることは新たな指摘であると思われる。また、文副詞としての *basically* の使用には *hopefully* と *thankfully* ほどに批判の目が向けられていないことは、使用の増加が顕著であることと照らし合わせると不可解である。金子 (1991:57) が *hopefully* や *thankfully* で「すませてしまう」と述べ、Garner (1998, 2003, 2016) が *skunked term* としたように、これらの文副詞用法の背後には *ly* の付かない形容詞を用いた表現が従来使われていた表現として存在する。しかし、両表現が全く同じ意味機能を果たすのであれば、どちらか一方のみで事足りるので、文副詞用法が確立する過程には談話標識などの新たな機能が生じている可能性が考えられる。

辞書における *basically* の文副詞用法の語義「つまり」「要するに」は言い換え、要約である。言い換えや要約のための談話標識には *in other words*, *in short* などがあるが、文副詞 *basically* には (1) に示されるような語義のどのような影響があり、どのような談話構成機能や態度・感情表明機能 (松尾・廣瀬・西川 2015 :337-343) があるのか、また、*ly* を伴わない形容詞 *basic* によって類似した意味を表す表現の使用頻度は *basically* の文副詞の使用が増加するに伴い変化しているのかについては、今後の課題としたい。

注

* 本稿は、科学研究費助成事業 (日本学術振興会、基盤研究 (C)、2019年度-2022年度、研究代表者：滝沢直宏、課題番号：19K00697) 「英語の *ly* 副詞の記述的研究および副詞辞典編纂のための辞書学的研究」の補助を受けている。

- 1) 副詞の取り扱い是一般英語辞典などにおいても「不十分で、たとえば *-ly* のつく形容詞の見出し語の派生形であるとしか示されておらず、用例も修飾関係も明示されていないことが多い」(小西編 1989: viiii) とされていた。しかし、その後、コーパスの本格的使用が始まり、この状況は大きく改善されたと思われるが、*ly* 副詞に関してはまだ改善の余地が残っていると思われる。
- 2) *ly* 副詞を含む *politically correct* もリストに収録されている。
- 3) 表3に見られるように、冒頭にファイルIDの行があり、また、ピリオドなどの記号類も1行に含まれるため、*wlp* ファイルの行数を *text* ファイルの語数として扱うことには議論の余地があるが、今回は *basically*・*hopefully*・*thankfully* の相対的な頻度の観察を目的としているため、重大な問題にはならないと判断した。
- 4) COHA のファイルでは記号類の前に半角のスペースが置かれているため、検索文字列では「*Basically*」の直後に「*,*」を指定するのではなく、「*Basically,*」の形で間にスペースを置いている。

5) なお、この検索手順では文頭位置に生じていて直後にコンマが現れない「Basically」「Hopefully」「Thankfully」の頻度が得られない。これらも文副詞である可能性はあるが、本稿では、確実に文副詞であろうと思われる直後にコンマが現れるもののみを文副詞用法として扱うこととした。

参考文献

- Garner, B. A. 1998. *A Dictionary of Modern American Usage*. New York: Oxford University Press.
- Garner, B. A. 2003. *A Dictionary of Modern American Usage*. 2nd ed. New York: Oxford University Press.
- Garner, B. A. 2016. *Garner's Modern English Usage*. 4th ed. New York: Oxford University Press.
- 金子稔. 1991. 『現代英語・語法ノート』教育出版.
- 松尾文子・廣瀬浩三・西川眞由美. 2015. 『英語談話標識用法辞典—43の基本ディスコース・マーカー』研究社.
- 滝沢直宏・西村祐一. 2016. 「WLP-dfcによる通時的変化の記述—Corpus of Historical American Englishにおけるly副詞を例に」『現代英語談話会論集』11: 1-16.

辞書

- 井上永幸・赤野一郎（編）. 2019. 『ウィズダム英和辞典 第4版』三省堂. [W4]
- 小西友七・安井稔・國廣哲彌・堀内克明（編集主監）. 1994. 『小学館ランダムハウス英和大辞典第2版』小学館. [R大2]
- Oxford Advanced Learner's Dictionary*. 10th ed. London: Oxford University Press. [OALD10]
- The Oxford English Dictionary* (Online版, 2022年10月28日アクセス)
<http://www.oed.com/>
- 小西友七・南出康世（編集主監）. 2001. 『ジーニアス英和大辞典』大修館書店. [G大]

コーパス

The Corpus of Historical American English の full text ファイルと wlp ファイル。1810年から2009年までの4つのジャンル（但し、newspaperは1860年代以降）のテキストから構成される、およそ4億7千万語からなるコーパス。<https://www.english-corpora.org/coha/> 参照。[COHA]

